

令和5年度（2023年度）第2回放課後活動推進協議会（道央会場）

【道央会場】令和5年（2023年）11月17日（金）（オンライン） 参加者：115名

放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象に、子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な講義や協議を行い、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的に、オンライン形式で協議会を実施しました。

1 講義

○「不器用な子どもに対する運動指導のコツ～楽しむことを大切にした指導～」

講師 北海道教育大学岩見沢校アダプテッド・スポーツ研究室 准教授 大山 祐太 氏

体の使い方をうまくできない子ども、いわゆる運動が苦手な子どもも楽しむことを前提条件として運動ができる方法について、理論や実際の動画を通して学びました。

お話の中で、発達に遅れや偏りがある子ども、いわゆる不器用な子どもに対する指導では、それを気にしているのは大人であるが、着目すべきは子ども側の困り感であること、これまで医療分野での議論がほとんどで、発達上の問題という捉えられ方をされず、教育的支援の必要性は認知されてきていなかったと指摘されました。

5つの運動スキルの発達の観点について示され、中でも、微細運動（手指の細かい動き）の発達の過程で、手首までの安定性パターンの発達に困難がある場合や、安定性が適切に獲得されないうちに微細運動を要求された場合等に、手首の不安定さを補うために普通ではない握り方や道具の使い方をすることがあるため、各教科の学習にも困難さを抱えるなどの説明がありました。

まずは楽しみながら繰り返し運動することで、運動スキル獲得の機会が増え、上手くなったり出来るようになることで、さらに自信を持ち、また運動したくなることから、運動スキルの獲得が進むことが示されました。

まとめとして、学習・日常生活に運動能力が影響していること、子どもの「不器用さ」は大人は気にしないが、子ども本人は困る可能性があること、分かりやすく楽しめ、幅広い運動を経験でき、安心して何度も取り組める内容を取り入れることが必要であると示されました。



2 情報交流（進行）空知教育局社会教育指導班、石狩教育局社会教育指導班、後志教育局社会教育指導班

参加者の感想

- ・ 運動能力の低い児童に対する指導方法として、楽しい事が1番。バルシューレを、少し調べて取り入れてみたいと思いました、運動の嫌いな児童への声かけや自信をつけるため取り組んで行きたいと思います。
- ・ 今日の講義で学んだ内容を意識して、少しでも、運動が苦手な子が、「たのしかった」と思える放課後になるように、外遊びや、運動遊びに誘い、得意な子供たちの言動にも注意しながら、保育を続けたいと思います。
- ・ 体全体を使った活動は子どもも楽しく出来て凄くいいものだなと思いました。